

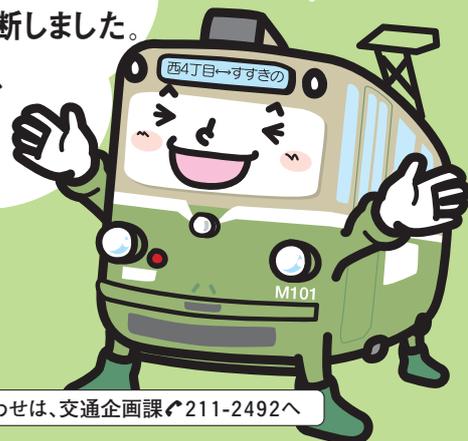
路面電車 存続へ

札幌市長
上田 文雄
うえだ ふみお



乗客の減少により経営が悪化し、車両や施設の老朽化も進んだことから、平成13年度から存続するのか廃止するのかを検討していた札幌の路面電車。

このたび、総合的に判断し、存続することを決断しました。今回は、存続に至った経緯とともに、今後の検討課題を紹介します。



このページに関するお問い合わせは、交通企画課 ☎211-2492へ

Q どうして路面電車を存続させることになったの？



存続のポイント

- 市民の存続の意向が強い
- 人や環境に優しい
- 都心のまちづくりに生かせる
- 税金の投入は必要だが、民間活力の導入により、収支改善の可能性が見込める



市民議論を通じて、市民の皆さんの「存続させるべき」との強い思いが伝わり、また、存続するための課題についても、解決に向けた方向性が見えてきたからです。

さらに、路面電車は、エネルギー効率がよく、街中で排ガスを出さない乗り物であり、札幌の「顔」として都心を活性化できる可能性を持っていることから、一定の税金の投入を行い存続させるという決断をしました。

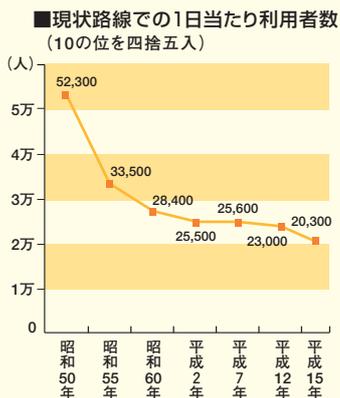
今後は、路面電車を都心全体のまちづくりに積極的に生かせるよう、市民だけでなく観光客なども利用しやすい路線の在り方や低床車両の導入などの課題について、具体的に検討を進めます。

なぜ？ 存続・廃止の議論に

現在、「西4丁目〜すすきの」間を運行している路面電車ですが――

01 年々利用者は減少

地下鉄開通により現在の路線に縮小された昭和四十九年には、一日平均利用者は五万三千人でしたが、現在は二万人にまで減少しています。



02 1億4千万円の赤字

平成十四年度から経常収支が赤字に転落し、平成十五年度は一億四千万円まで膨らみました。乗車料収入だけでは運行経費は賄えない状況です。

03 車両、施設の更新に90億円

路面電車の多くの車両は四十年以上使用しており、老朽化が著しく、早急に更新する必要があります。試算では、車両二十三両のほか、整備工場、軌道の改修も必要のため、約九十億円の費用が必要になります。